

都城市・東京大学史料編纂所の連携による史料画像の Web 公開  
—歴史的な史料情報の共有・利活用促進に関する覚書の締結—

1. 報告者：池田 宜永（都城市長）  
児玉 晴男（都城市教育長）  
江藤 博之（都城市教育部長）  
山下 真一（都城島津邸 館長）  
本郷 恵子（東京大学史料編纂所 所長）  
山田 太造（東京大学史料編纂所 准教授）  
畑山 周平（東京大学史料編纂所 助教）

2. 発表のポイント

- ◆宮崎県都城市の施設である都城島津邸が所蔵する、文献を中心とした歴史史料の画像を、東京大学史料編纂所のデジタルアーカイブズを通して、広く Web 公開することになった。
- ◆都城島津邸所蔵史料は、九州南部の雄、島津一族の歴史を研究する上で重要な史料群である。今回 Web 公開が実現したことで、いつでも、だれでも本史料群の画像にアクセスすることが可能になった。これにより、本史料群に関する研究の深化が見込まれるのはもちろんだが、市民も容易に史料画像にアクセスできるようになった意義も大きく、学校教育や生涯学習での積極的な活用が期待できる。
- ◆今回の画像公開は、地域の史料を大切に保存・整理している都城市と、歴史史料デジタルアーカイブズの構築・運用に実績のある史料編纂所とがタッグを組んだことで実現した。自治体と研究所とが連携して課題解決に挑んだ好例といえる。

3. 発表概要：

都城市は九州南部の大名島津氏の分家である都城島津家が拠点とした地であり、東京大学史料編纂所は国宝「島津家文書」を所蔵していることから、特にここ数年、両者は連携してさまざまな取り組みを行ってきた。そして今回、都城市の施設である都城島津邸（注1）が所蔵する、文献を中心とした歴史史料（古文書・古記録・絵図等）の画像を、史料編纂所のデジタルアーカイブズを通して、広く Web 公開することになった。具体的には、「Hi-CAT Plus」

（ハイキャットプラス）（注2）というデジタルアーカイブズから、都城島津邸所蔵史料の画像を、いつでも、だれでも検索・閲覧することが可能となっている。これにより、一般的な紙媒体の史料集では難しかった史料画像の公開が、一挙に進展したのであり、今後の都城市域や島津一族の歴史に関する研究の深化に寄与していくことが見込まれる。また、市民も容易に史料画像にアクセスできるようになった意義も大きく、研究成果を市民に還元していく手段として、学校教育や生涯学習で積極的に活用されていくことが期待できる。なお、今回の画像公開は、地域の史料を大切に保存し、目録作成などを通して研究環境の整備を進めている都城市と、歴史史料デジタルアーカイブズの構築・運用に実績のある史料編纂所とがタッグを組んだことで実現した。自治体と研究所とが、それぞれの強みを生かしつつ、連携して課題解決に挑んだ好例といえる。

4. 発表内容：

この度、宮崎県都城市の施設である都城島津邸が所蔵する、文献を中心とした歴史史料（古文書・古記録・絵図等）の画像を、東京大学史料編纂所のデジタルアーカイブズを通して、広く Web 公開することになった。

都城市 (<https://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/>) は、九州南部の大名島津氏の分家である都城島津家が拠点とした地であり、島津氏関係史料が豊富に残されている。

一方史料編纂所 (<https://www.hi.u-tokyo.ac.jp/>) は、国宝「島津家文書」を所蔵していることから、島津氏に関する史料の収集・研究に力を入れていた。こうしたことから、史料編纂所は都城市所在史料の調査を企図し、都城島津邸 (<https://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/site/shimazu/>) のご厚意のもと、2017 年度から同館所蔵史料の調査・撮影を続けてきている。

加えて、都城市・都城島津邸はご所蔵史料の活用促進に積極的で、この間史料編纂所と共同で、さまざまな取り組みを行ってきた。2019 年には、高精度の島津家文書のレプリカを史料編纂所が都城市に寄贈し、都城島津邸でレプリカを使ったワークショップを開催した。また同年には、都城島津邸において特別展「島津義弘と都城」が、史料編纂所との共催の形で行われている。

このように連携を深めてきたところ、2019 年に、史料編纂所が日本学術振興会「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」（注 3）の拠点として採択された。これをきっかけに、史料情報のさらなる共有・利活用促進を目的として、都城市と史料編纂所との連携による史料画像の公開が目指されるに至ったのである。

そもそも史料編纂所は、明治以来、国内外に所在する歴史史料の調査・撮影を継続してきている。近年では、収集したデータのデジタル化を進めるとともに、デジタル撮影からデータベース搭載にいたる進捗を総合的に管理する仕組みを整えている。また、技術の進化にあわせてシステムを更新し、100 年以上にわたる史料調査の成果を、常に最新の状態で蓄積している。このような実績が前提となって、都城市からご信頼をいただき、画像公開に向けた準備が着実に進んでいったのである。

こうして今回の Web 公開が実現し、いつでも、だれでも、都城島津邸所蔵史料の画像を、史料編纂所のデジタルアーカイブズを通して閲覧できるようになった。具体的には、「Hi-CAT Plus」（ハイキャットプラス）というデジタルアーカイブズから、閲覧が可能になっている。史料編纂所のデータベース検索画面 (<https://wwwap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/>) から、Hi-CAT Plus を選択して「都城島津邸」などと検索すると、閲覧可能な同館史料の目録が表示される。ここから閲覧したい史料を選び、画像表示ボタンを押すと、史料画像があらわれるようになっている（8. 添付資料を参照）。現在閲覧が可能なのは、2017 年度から 2020 年度までに、史料編纂所が撮影した史料画像である。画像数でいうと、約 11,000 コマとなっている。

デジタルアーカイブズには、都城島津邸が整備した目録に基づく史料情報も搭載してあるので、史料名や史料番号からの検索も可能になっている。また、画像の利用条件は都城市のホームページ上に明記されており (<https://www.city.miyakonojo.miyazaki.jp/site/shimazu/35298.html>)、同市ホームページと Hi-CAT Plus とをリンクでつなぐことによって、利用者の便宜を図っている。

さて、今回の史料画像の Web 公開は、たいへん大きな意義を持つものである。都城島津邸所蔵史料は、これまでも同館の展览会や、『都城市史』などの史料集によって順次紹介されてきているが、膨大な量があるため未紹介のものもある。また、紙媒体の史料集では大量の図版を掲載するのは難しいため、画像まで紹介されている史料は限られている状態であった。

今回の画像公開は、これらの課題を解決する突破口となるもので、未紹介史料については、今回の公開を機にはじめて本格的な検討が進められていくことになる。これによって、従来知られていなかった事実が解明され、都城市域や島津一族の歴史に関する研究が深化していくことが期待される。また紹介済みの史料についても、今後は画像で史料の原態を把握したうえで再検討をすることにより、新たな論点が導き出されていく可能性が高い。

そして、こうした画像公開を契機とする新しい研究成果は、都城島津邸の史料展覧会や、史料編纂所の史料集編纂に生かされていき、それらがまた新たな研究を刺激していくことが見込まれる。つまり、研究の好循環が生まれることが期待されるのである。

また歴史学の専門家に限らず、市民も容易に史料画像にアクセスできるようになった意義も強調しておきたい。今回公開される史料は、都城市域の歴史に深くかかわるものであるもので、特に同市における学校教育や生涯学習での積極的な活用が期待できる。最新の研究成果を市民に還元し、地域の歴史への関心を呼び起こしていく手段としても、史料画像の Web 公開の意義は大きいのである。

最後に、都城市と史料編纂所とが連携したこと自体の意義を述べておきたい。今回の画像公開は、地域の史料を大切に保存し、目録作成などを通して研究環境の整備を進めている都城市と、歴史史料データベースの構築・運用に実績のある史料編纂所とがタッグを組んだことで、はじめて実現した。自治体と研究所とが、それぞれの強みを生かしつつ、連携して課題解決に挑んだ好例としても、重要といえるだろう。

## 5. 用語解説：

(注 1) 都城島津邸

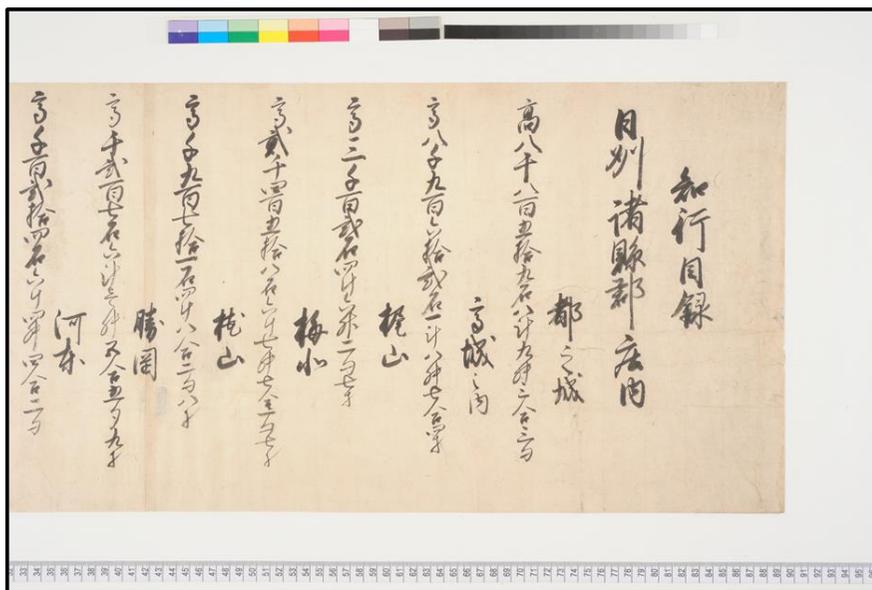
都城島津家の歴史的財産を保存・活用していくために、都城市が設置した施設。旧都城島津家住宅などの建造物群、史料の保存・展示を担う都城島津伝承館、そのほかの野外施設から成る。国宝・重要文化財を適切に展示できる「公開承認施設」に認定されており、都城島津家史料を中心とした展覧会を積極的に開催している。

(注 2) Hi-CAT Plus (ハイキャットプラス)

史料編纂所のデータベースのうちの一つ。史料編纂所がこれまで撮影・収集した国内および海外に所在する史料の画像データを閲覧するためのもの。

(注 3) 日本学術振興会「人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業」

「人文学・社会科学に係るデータを分野や国を超えて共有・利活用する総合的な基盤を構築することにより、研究者がともにデータを共有しあい、国内外の共同研究等を促進することを目指し」た事業（同事業 HP より）。史料編纂所は唯一の人文学拠点として採択されており、自治体や研究機関と連携して、史料画像の公開促進に取り組んでいる。



○今回公開になる画像の例①

慶長17（1612）年6月21日島津氏老中連署知行目録（史料通番103・ID00102）。鹿児島島の島津本家が重臣の連名により、都城島津家の領地を確認したもの。「都之城」「梅北」など、現在の都城市域の地名が見える。



○今回公開になる画像の例②

島津家御領内全図（史料通番4841・ID07005）。九州南部の島津領から、琉球・八重山諸島までを描く。都城島津邸には、こうした貴重な絵図・絵画史料もあり、今回その一部がWeb上で見られるようになった。

# 連携による画像公開のイメージ

## 市民

より高次の  
社会還元へ

教育・学習の素材  
研究の材料

研究者

### 都城市

唯一無二の原本の価値の「再発見」  
新たな研究成果を反映した原本展示



### 都城島津邸

史料を大切に保存  
目録など研究環境整備

新たな  
研究成果

新たな  
研究成果

成果を踏まえて  
調査・撮影

デジタルアーカイブを  
通じて画像公開



### 東京大学

現時点での画像数  
=約11,000コマ！



### 東京大学史料編纂所